

和牛肥育牛への飼料用米給与実証

要約

出荷前の6か月間、飼料用米（粉碎加工玄米）を1～4%（現物重比）の割合で混合し給与したところ、増体・枝肉重量は良好であった。また、枝肉成績は全て格付4等級以上であり、肉色、締まり・きめ等にも影響はなかった。

○ 展示のねらい

和牛肥育牛に対する適切な飼料用米給与量を検討し、増体や枝肉成績を調査することにより、肥育農家における飼料用米の利用拡大を図る。

○ 主な成果

和牛肥育牛に濃厚飼料の給与量を変えずに粉碎加工した飼料用米（玄米）の混合割合を変えた飼料（表1）を給与したところ、順調な発育を示した（表2）。肉質は全て格付4等級以上率100%であり、ロース芯面積、ばら厚、歩留基準値、BMS ナンバー（脂肪交雑）は良好な数値であった（表3）。飼料用米混合割合4%までであれば肉質への影響はなかった。

表1 試験区ごとの飼料用米混合割合（濃厚飼料中の飼料用米混合割合1%として試算）

試験区	導入～25か月齢	25か月齢～出荷
対照区	飼料用米 2%混合	飼料用米 1%混合
供試区①	飼料用米 2%混合	飼料用米 2%混合
供試区②	飼料用米 2%混合	飼料用米 4%混合

表2 発育成績 (か月, kg, 円)

試験区	肥育期間中DG	出荷月齢	出荷体重	枝肉重量
対照区	0.75	31.1	772	502
供試区①	0.84	31.0	818	532
供試区②	0.76	30.7	765	498

表3 肉質評価 (m², cm, %)

試験区	格付	ロース芯面積	ばら厚	皮下脂肪厚	歩留基準値	BMS. No.	BCS. No.	締まり	きめ
対照区	100%	61.0	8.1	2.0	74.6	8.0	3.3	4.7	4.7
供試区①	100%	62.8	8.7	2.9	74.2	7.5	3.8	4.3	4.3
供試区②	100%	62.3	7.9	2.0	74.8	7.5	3.5	4.5	4.8

○ 今後の方向性

- ・飼料用米混合割合を増加させた場合の給与及びコスト低減効果の実証が必要である。
- ・飼料用米給与牛の特徴付けのために、脂肪酸組成の変化等について検討する必要がある。
- ・飼料用米の安定的な利用のために年間保管施設や加工処理機の整備が必要である。

実施機関：那須農業振興事務所経営普及部 実施場所：大田原市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315